

2025年9月2日

報道関係各位

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

コンテナと仮想マシンの共存を実現する「CUVIC CP+」を開始 プライベートクラウド環境で、安全かつ迅速なモダナイゼーションを支援

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(代表取締役社長:新宮 達史、本社:東京都港区、略称:CTC)は、コンテナ^{※1}と仮想マシンの共存を実現する IT 基盤「CUVIC CP+」の提供を開始します。サービスの第一弾として、お客様の運用環境に類似した環境を構築し、検証できるサービスをクラウドで提供します。お客様は、コンテナなどの実行環境を用意することなく迅速に使い始めることができます。価格は月額75万円(税抜き)からで、本サービスと今年度中に提供を予定している本番環境向けの基盤と合わせ、3年間で20億円の売上を目指します。

近年、アプリケーション開発・運用のスピードと柔軟性が求められる中、コンテナ技術を活用して、業務アプリケーションをクラウドに最適化させるクラウドネイティブ化が進んでいます。加えて、国内データセンターを活用することによるデータ保全、セキュリティ、プライバシー法規制・ガバナンスを確保しながら、リソースを効率的に活用できる「ホステッドプライベートクラウド」にも注目が集まっています。

本サービスは、CUVIC CP+サービスの第一弾として、コンテナと仮想マシンを同一の IT 基盤上で同時に利用できるプライベートクラウド環境を構築し、システムのモダナイゼーションを検証できるサービスです。お客様の運用環境に類似した環境をクラウドサービスで提供するため、お客様は、ハードウェアやミドルウェアなどの IT 基盤を個別に準備する必要がなく、新環境でのアプリケーションの動作やコンテナ管理の検証を、迅速に始めることが可能となります。また、アプリケーションの実運用を想定した、コンテナと仮想マシンの管理・運用のシナリオの作成を通して、統合運用の有効性や技術的な課題を把握しやすくなり、システムの段階的なモダナイゼーションやインフラの統合について、より現実的かつ低リスクで進めることが期待できます。

オンプレミス環境と同等の堅牢性を持つホステッドプライベートクラウド上で、AI を活用した次世代型のシステム運用を実施し、障害の予兆検知や予測を通じて、機密性の高いデータを扱うシステムの安定稼働を支えます。オプションで、システムの移行支援サービスの提供も可能です。

CTC は、ホステッドプライベートクラウドの10年以上の運用実績や、クラウドネイティブ技術の支援サービス「C-Native」で培ったRed Hat OpenShift などの IT 基盤構築における知見を活かして本サービスを開発しました。今後も、お客様のクラウドネイティブへのスムーズな移行を実現するため、スモールスタートが可能な本番環境の提供や仮想マシンからコンテナへの移行支援など、サービスメニューを拡充していきます。

今回のプレスリリースにあたり、以下のコメントをいただいております。

企業のデジタルトランスフォーメーションを加速する革新的なソリューションとして、Red Hat OpenShift および OpenShift Virtualization を活用した新サービスの提供が開始されることを心より歓迎いたします。これは、企業におけるデジタル変革促進に向けた当社の取り組みの一環です。CTC が基盤の運用管理を担うことで、お客様は迅速かつ効率的に RedHat OpenShift や OpenShift Virtualization の 最新技術を活用する事ができ、将来的な IT 戦略の多様性を高めることが可能となります。本サービスが、企業の競争力を向上させる一助となり、多くのお客様にとって大きな利点をもたらすことを期待しています。

レッドハット株式会社
代表取締役社長
三浦 美徳

- ※1 コンテナ:アプリケーションとその実行環境を1つにパッケージ化し、一貫して動作させる仮想化技術のこと。
- ※ Red Hat、Red Hat logo および OpenShift は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. およびその子会社の商標または登録商標です。
- ※ 記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
- ※ 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

<報道機関からのお問い合わせ先>
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
広報部
E-mail: press@ctc-g.co.jp